

中 川高同窓会報

埼玉県立川越高等学校同窓会
〒350-0053 川越市郭町2-6 川越高校内

【同窓会】電話・FAX (049) 225-9071 (HP) <http://alumni.gnk.cc/kawagoe/>
【学校】電話 (049) 222-0224 (HP) <http://www.kawagoe-h.spec.ed.jp/>

特集 「くすのき交流会」が始動 ～成果・課題・これから



目次

特集 「くすのき交流会が始動」	成果・課題・これから……2～4
会長・校長挨拶……	5
報告 本校にも「共学化」の意見聴取（同窓会には異議唱える「意見書」を提出）……	6～7
地区初雁会の新会長挨拶、同窓会役員会を開催……	8
「くすのき未来塾」開催……	9
「川高初雁の森」植樹料納入者総会記念講演 和田雄二氏……	10
文化講演会 松藤千弥氏……	12
「くすの木俳句大会」のご案内、 「くすの木囲碁クラブ」の活動 終身会費納入者（令和5年度）、 植樹祭・秋季散策会の報告……	13 14
令和5年度事業報告・会計収支 令和6年度事業計画・予算案 新聞部長の寄稿「在校生から見た川高の1年」、人事異動……	15 16
「川高サイエンス探究事業」 大学等入試合格状況一覧、部活動の主な活躍……	17 18
叙勲・褒章受賞者、秋季散策会のご案内、寄贈図書……	19
総会・記念講演のご案内 講師 花岡達也氏 編集後記など……	20

特集

「くすのき交流会」が始動 報告文に見る成果・課題・これから

世代を超えた同窓生間のネットワークづくりを目指し、新たな出会いの場として企画された「くすのき交流会」。晴れて第1回が開催されました。特集では、参加者の反応や感想・意見から見える成果・課題・これからについて、会の企画・立案・運営にあたる「企画運営委員会」の報告文を紹介します。

交流会当日の流れ

第1回「くすのき交流会」は「国の内外の幅広い分野で活躍中の同窓生や経験豊富な

同窓会副会長（高8）が主催者挨拶、小出和重校長の来賓挨拶後、応援部現役生徒による演舞と続きました。

その後、多目的ホールに隣接する交流会場へ移動。梶田隆章東京大学卓越教授（高29）による乾杯の挨拶（写真・上）を契機に、各参加者は近い卒業回期ごとに割り振られたAからHまでの8ベーステーブルを基点にして、くすのきの下で過ごしたころの話

同窓生が一堂に会し、先輩・後輩の枠を超え、母校・くすのきの下で過ごしたころの話などを基に、質の高い異業種交流などを通して多様な情報交換を行うとともに、今後の夢を語り合うなどしながら、同窓生間のより一層のネットワークづくりを「目指す」とが目的。

最寄り駅より会場までの案内には、各地区初雁会の推薦を受け運営に携わっている同窓生役員が紫色の腕章を着けて立ち、参加者を迎え、会場では定刻前よりあちこちで参加者の輪ができ、早速交流が始まっています。会は山本浩法政大教授（高24、元NHKアナウンサー・解説委員）の総合司会で始まり、会場内の多目的ホール椅子席での開催セレモニーでは根岸秋男同窓会長（高29）、岩堀弘明元

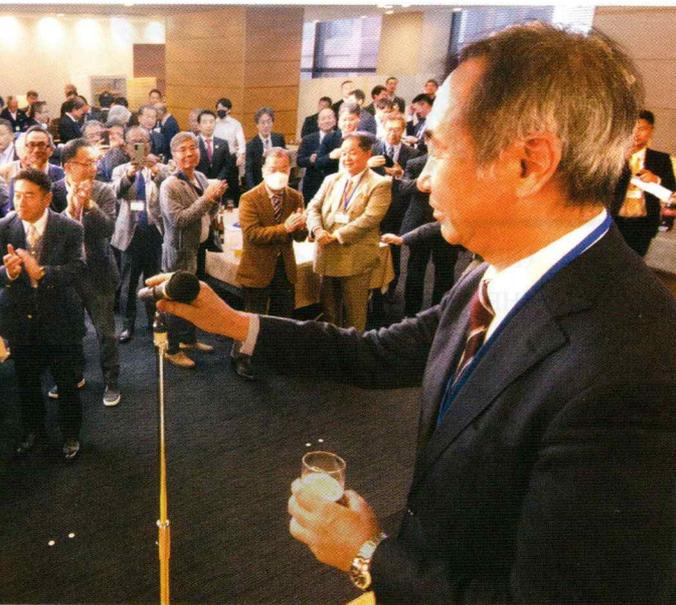
令和5年12月16日（土）午後

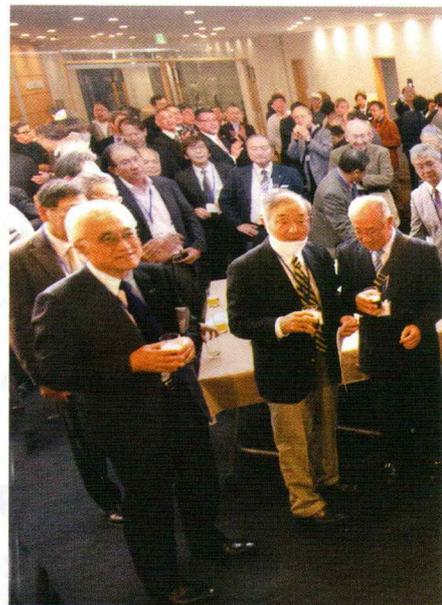
交流会場内で立食形式での交流が終盤になるころ、中島涼輔氏（高62）が知り合いの先輩に推されて中央ステージに登壇し、自身の起業した経緯から現在の状況説明を経て

「くすのき交流会」に関する「号外」を掲載、同画面上よりURLかQRコードから申し込みフォームに直接アクセスできる方法を追加採用。同時に各学年同窓会や部活動OB会などの定期的な交流している同窓生間のネットワークを通して多方面への情報発信を依頼したことにより参加希望者が着実に増加しました。最終的には希望者が募集定員を上回る結果となり、その後の応募はお断りするなどこ

交流会募集方法を追加

第1回「くすのき交流会」の参加募集は、2023（令和5）年4月22日発行の「川高同窓会報（第79号）」での特集掲載と、同封した「参加申込はがき」により開始。募集当初より参加希望者数が伸び悩んでいたため、7月3日より同窓会ホームページに「くすのき交流会」に関する「号外」を掲載、同画面上よりURLかQRコードから申し込みフォームに直接アクセスできる方法を追加採用。同時に各学年同窓会や部活動OB会などの定期的な交流している同窓生間のネットワークを通して多方面への情報発信を依頼したことにより参加希望者が着実に増加しました。最終的には希望者が募集定員を上回る結果となり、その後の応募はお断りするなどこ





参加者への情報提供

迷惑をかける事態となりました。今後の同窓会活動を充実させていく上で、全同窓会員への会報発行やホームページ上の情報発信だけでは不十分で、身近なソーシャル・ネットワーキング・サービスを活用し、いかにして各同窓会

「くすのき交流会」への参加者には、申込時に住所・緊急連絡先の他に「卒業同期」(参考: 令和6年3月卒業生は「高76」「所属会社・団体名」

員の手元まで価値ある情報を届けることができるかが肝要であることを改めて痛感しました

「業種・職種」「役職」及び「在校時部活動」の記入を依頼。当日は参加者全員に対し、「参加者名簿」として各参加者の「ベーステーブル」記載の他、「卒業同期」以下、「所属会社・団体名」などの個人情報一覧表を作成し、交流の資料として配付しました。

既に第一線を退いている経験豊富な同窓生の中には、「所属会社」等の個人情報記載なしの「参加申込はがき」が散見できました。当日配付する「参加者名簿」中に掲載したさまざまなデータが交流の糸口になるのではとの考えから、それらの方には直接電話等で「元所属会社」等、無理のない範囲での個人情報の提供をお願いしました。なお、多くの参加者が「在校時部活動」の記載について高く評価。交流会終了後に「年代が離れている参加者同士が同じ部活動の先輩・後輩であることを確認し合うことから交流を深めることができた」との情報が多々あり、川高在校時の思い出としての部活動の重みを再確認するとともに今後の企画の参考になりました。

実施後アンケートの結果

「くすのき交流会」企画運営委員会では、当初より、一般的に仕事や子育てが生活の中心である比較的若手となる同窓生に有意義な会となるよう企画。交通の便の良い東京での土曜日開催・比較的廉価な会費・夕刻には閉会、などはそのような趣旨からのもので、アンケート結果から見ると「満足」の回答が9割を超えました(グラフ・次頁右)。当日は経験豊富な同窓生にも趣旨に賛同し参加してい

若手参加者の意見・要望など

若手こそ参加してほしい

先日、緊張しながらも参加した「くすのき交流会」では、私はなんと最若手でした。私がこの場をお借りしてお伝えしたいことはただ一つ、「若者こそ、この会に参加してほしい」という想いです。

若いから・部活動が一緒だったから・ネクタイが良い感じだから・名前が「龍之介」でなんかカッコいいから、何か見つけて話し掛けてくださる先輩がたくさんいらっしゃいました。そして先輩方との会話は、数年後、数十年後の自分が何を考え、

若手の参加・周知・参加費が課題

川高生には枠にはまらない勢いがあります。弓道部時代の仲間を見ても、面白いことをしている人が大勢います。新入社員の私が「くすのき交流会」に参加したのは、もともと世代を超えて「川高の卒業生は社会で何をしているのか」に興味があったからです。

色々なキャリアを歩まれている方がいらつしやるので、社会に出て間もない方には特に勧めたいです。これを読んだ一人でも多くの方、特に若い皆様と、第2回くすのき交流会でお話しできることを心から楽しみにしています。志村龍之介(高67・三菱総合研究所 コンサルタント)

若手の参加・周知・参加費が課題

川高生には枠にはまらない勢いがあります。弓道部時代の仲間を見ても、面白いことをしている人が大勢います。新入社員の私が「くすのき交流会」に参加したのは、もともと世代を超えて「川高の卒業生は社会で何をしているのか」に興味があったからです。

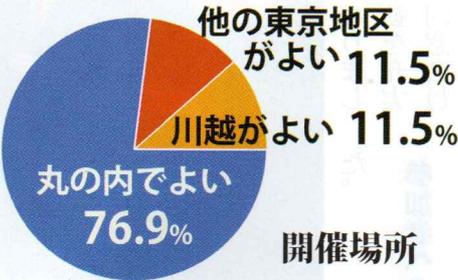
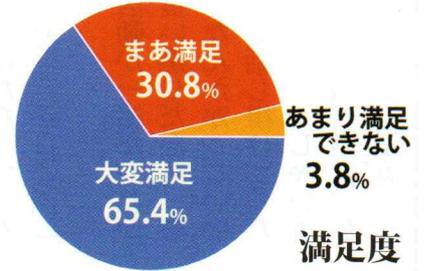
会場では多くの大先輩と出会うことができ、私も負けられないと刺激を受けました。後日、うれしいことにこの会で知り合った方と一緒に仕事をすることもできました。普段は見えづらい川高生のつながりを広

若手の参加・周知・参加費が課題

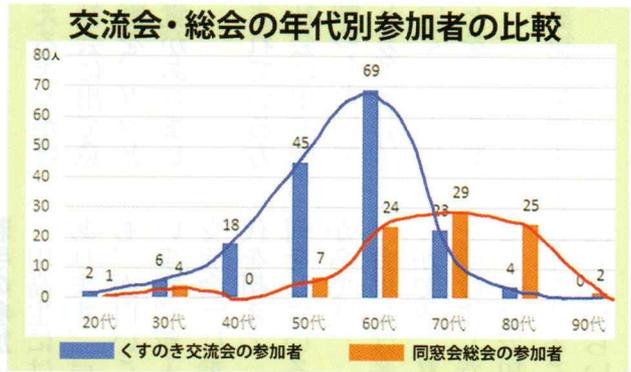
げられる素晴らしい企画でしたが、若手の参加がとてもしなかつたのは課題です。次回に向けて改善するなら情報発信と参加費でしょう。私の周りで同窓会報に目を通す人はほぼおらず、SNSなど私たち世代が使っている手段での告知が必要です。参加費は高く、一企業の社長から大学生まで一律8千円というのは、特に若手に負担が大きいです。

若い世代が来やすい環境が整えば、さらに活気のある交流会になるでしょう。神山美輝(高67・日本経済新聞記者)

ただき、西島昭三氏(高6)に最年長同窓生として挨拶を頂戴。しかし、募集時から、「第一線を退いている同窓生を除外するよな企画なのか」との指摘を頂戴し、困惑もしました。掲載したコラム「若手参加者の意見・要望など」(前ページ左)から、若い参加者にとって国の内外の幅広い分野で活躍中の先輩や経験豊富な先輩との交流が貴重な経験や刺激となるのが指摘されています。このことから「くすのき交流会」の今後を展望する上で、経験豊富な同窓生の参加が不可欠であることは言うまでもありません。また、アンケート結果の中で、「川越で」「仕事の交流が趣旨だと、今後は参加の動機にならない」等のご指摘を頂いています。が、前述したとお



り本会を開催する上でポイントと考えている企画内容について、あらためてご理解いただきたいと考えております。当日参加者の年代別層は、毎年5月最終日曜日に川越で開催している同窓会総会時の参加者と比較すると、より若い年代の層への変化が見えます(グラフ下)。今後、本会開催の趣旨を踏まえ、経験豊富な同窓生の継続した参加について積極的にお願いする取組とともに、参加者全体としての年代別層をより若い年代の層へと拡大させて行くことができるよう、若い参加者にとって有意義な企画内容を工夫する取組が必要であると考えています。



交流会場のスペース活用や会場での交流方法、継続開催等について参加者から次のような意見を頂戴しました。

- 1 もう少し早い時期での実施を希望(複数あり)。
- 2 多目的ホールでの企画やその時間的配分について交流会の趣旨に沿う内容検討が必要。
- 3 交流会場が狭いため、多目的ホールやその他の交流スペースの有効活用が不可欠。(身近な範囲で和気あいあいと交流ができ、会場が狭いとは思わないとの意見もあり)
- 4 交通の便や会費との兼ね

合いもあるが、広い別会場での開催検討も必要。

- 5 立食形式での飲食物の内容や提供箇所等の工夫が必要。
- 6 継続開催への要望(複数あり)。

「くすのき交流会」企画運営委員会では、頂いた意見を参考にして、次回開催に向けて検討を開始しました。また、アンケート回答者数が全参加者の16%と低く、原因は当日会場内でのアンケート記入・回収は困難と判断し配付した資料に掲載したQRコードより後日アクセスし、回答していただく方法を採用したためと考えています。本会を充実させ継続して開催していく上で適切な評価は欠かせません。「くすのき交流会」企画運営委員会ではアンケート等による評価方法についても改善に向け検討します。

●場所・明治安田ホール
東京都千代田区丸の内2の1の1(東京駅より徒歩5分)
☎03-5219-5602

●募集人数・180人(希望者多数の場合は先着順)

●参加費・8千円(30歳代までは7千円)

●募集方法(以下のどちらかの方法でお願いします)

- ①「参加申込はがき」利用
- ②URLかQRコード(写真左)から申し込みフォームに直接アクセスしてください。(4月30日(火)より受付開始。同窓会HPに掲載)

●その他 募集締め切り連絡や不測の事態などへの対応は同窓会ホームページでお知らせします。

企画運営委員会
本部 加島篤人(同窓会常任幹事・高34)、高橋篤(高37)、望月勝(高41)、新井義幸(高42)、金子保夫(事務局次長・高25)、野口孝(事務局次長・高25)

委員 在京・各地区初雁会推薦者、有志

同窓会長・校長 挨拶

同窓会長
根岸秋男
(高29)

昨年12月に同窓生の新たな交流の場として「第1回くすのき交流会」が開催され、経験豊富な先輩方から社会の第一線で活躍中の若い同窓生まで総勢167人の皆様に参加いただきました。

当日は、開催セレモニーで現役応援部の力強い演舞が披露され、梶田隆章東京大学卓越教授(高29)の乾杯の挨拶の後、先輩・後輩の枠を超えたさまざまな情報交換や、今後の夢を情熱的に語り合う姿が会場のおちこちで見られ、大変な熱気に包まれました。また、継続開催を望む声も多く聞かれたことから、今年の11月に「第2回くすのき交流会」を開催することといたしました。

地域貢献事業については10回の節目を迎えた「川高初雁の森 植樹祭」が昨年9月に開催され、澄み渡る青空の下、

遊歩道の補修作業に同窓生と現役生が共に汗を流し、交流を深めました。また、市内小学生を対象にした「くすのき未来塾」も対面での開催が実現し、元気な小学生を多数迎えることができました。いずれの事業も地域での認知度が着実に増しており、今後も継続・発展を図ってまいりたいと思います。

秋季散策会は昨年10月に東松山初雁会主催で開催され、高坂駅周辺の名所旧跡を巡りました。その後の懇親会では、58人の参加者全員で肩を組み応援歌を歌うなど旧交を温めました。

さて現在、埼玉県男女共同参画苦情処理委員より県教育委員会教育長に対し「埼玉県立高校において、共学化が早期に実現されるべき」との報告が出されており、このことについて県教育局より別学高校のPTA、同窓会等からの意見聴取が実施されました。その際、本会は同窓会長名で教育長あてに「意見書」を提出し、今回の勧告の趣旨に基づき川越高校の共学化に異を唱えました。「意見書」は同

窓会役員各位より助言等いただき完成させたもので、次頁に全文を掲載しておりますので、ご一読いただきますようお願い申し上げます。なお、事後になりますが同窓会総会時に於いて当該意見聴取についてご報告いたします。

最後に、同窓会活動のさらなる活性化に向けて、若い世代も含めた幅広い年齢層の同窓生が気軽に活動に参加できるように、裾野の拡大に引き続き取り組んでいきたいと考えております。

校長
小出和重

上にある「自主・自立」の校風の下、勉強も部活動も学校行事も真摯に取り組んでくれました。

今春は、国公立大学に東大7人(現役3人)をはじめ旧帝大・一橋大・東工大・国立大医学部に40人が現役合格。過去最多に迫る成果となりました。

ポストコロナ元年となった昨年度は、感染対策に留意しながらほぼすべての学校行事を以前に近い形で実施できました。くすのき祭も4年ぶりに入場制限なしで開催することができ、1万4千500人の方々が来場。今回は、応援部や水泳部が全国ネットでテレビ放映されるなど、メディアで取り上げられる場面が多く、関西方面からもくすのき祭に御来場いただきました。

また、奥武蔵の豊かな自然の中での強歩大会、有観客での陸上競技大会の実施など、非認知能力を高める教育活動を実施しました。

部活動では、陸上部がインターハイ出場。新聞部・美術部・物理部が、鹿児島で行われた「全国高等学校総合文化

祭」に出場。その他、地学部が地学オリンピック全国大会出場や物理部がロボコン全国大会出場等、さまざまな分野で結果を残した年でした。

これまでの歴史と伝統を大切にしつつ、時代に合った学習環境を整備し、川高生の高い志の実現をサポートしていくことが今の川高に携わる我々教職員の責務です。現在の生徒にも伝統は確実に引き継がれ、凌雲の志を持ち、より高みを目指し、日々努力し続けています。大きな可能性を持った川高生は、妥協することなく、大学合格をゴールとせず、その先で活躍する「力」を身に付けてほしいと考えています。

本校校長として着任以来、1年が経とうとしています。輝かしい歴史と伝統、文武にわたる実績、グローバル社会におけるリーダーとしての人材育成という大きなミッションの達成を目指してまいりました。根岸同窓会長をはじめ会員の皆様には、一方ならぬご協力・ご支援を賜り深く感謝申し上げます。引き続きのご支援をお願い致します。

本校にも「共学化」の意見聴取

同窓会は異議唱える意見書

昨年、男女別学高校の共学化を早期に実現する旨の勧告が、埼玉県男女共同参画苦情処理委員より県教育長に出されました。平成13年度以来約20年ぶりの勧告。前回は県教育委員会が「当面は現状維持」

と決定し現在に至っています。今回の勧告に対し、県教育局は1月より各別学高校のPTA・同窓会等に意見聴取を実施。本誌では、川高同窓会として県教育長に提出した「意見書」の全文を掲載します。

「共学化」勧告に異議

今回の勧告に対し、県教育局は各別学高校のPTA・同窓会等からの意見聴取を実施。本校で行われた意見聴取の際、同窓会は「今回の『勧告書』の趣旨に基づく埼玉県立川越高校の共学化に異を唱える」意見書を提出し、根岸同窓会長が意見聴取に臨みました。

県男女共同参画推進条例に基づき設置されている県男女共同参画苦情処理委員が、令和5年8月30日付けで埼玉県教育委員会教育長あてに、

「『男女別学』は女子に対するあらゆる形態の差別の撤廃に関する条約上、男女別学であることだけでは条約違反とはされていないものの『男女共学』での教育が奨励されており、男女の役割についての定型化された概念の撤廃が求められている。埼玉県立高校の男女別学校における管理職や教職員の格差における問題が浮き彫りになっていることは明らかであり、別紙で提言した施策がなされるとともに、埼玉県立高校において、共学が早期に実現されるべきであ

る(趣旨)」と勧告したのが発端。

この勧告を受け、県教育局では各別学高校のPTA・同窓会等からの意見聴取を実施。川越高校には2月17日(土)、県教育局県立学校部の依田英樹・高校改革統括監ほか2人の担当者が来校。9時45分より約1時間半にわたり意見聴取を実施。当日は小出和重校長同席の下、川越高校PTA会(PTA)会長と根岸秋男・同窓会長が意見聴取に臨みました。

根岸会長は本会を代表し、県教育委員会教育長あてに提出された勧告書(写真)の全文(勧告書別紙「勧告の内容」

表・資料含め18頁)の内容を踏まえ、県教育長あて「意見書」(A4横書き)を提出。なお、同「意見書」は同窓会役員各位からの助言等を受け作成したもの。以下に「意見書」全文を掲載します。

なお、埼玉県教育委員会教育長あて「勧告書」によると、令和6年8月31日までに県教育長より埼玉県男女共同参画苦情処理委員に対し、今回の勧告について「措置報告書」を提出することになっていきます。

「意見書」の全文(原文ママ)

令和6年2月17日
埼玉県教育委員会教育長様
埼玉県立川越高等学校
同窓会長 根岸秋男
埼玉県男女共同参画苦情処理委員による勧告に対する意見について

現下の学校教育においては、男女共同参画社会実現への課題解決を含む多様性を尊重する社会の実現に向けた人権に係る教育実践が重要なテーマであり、これまでも埼玉県立高校では共学校、別学校を問わず不断の努力を必要

とする課題として真摯に取り組んできている。

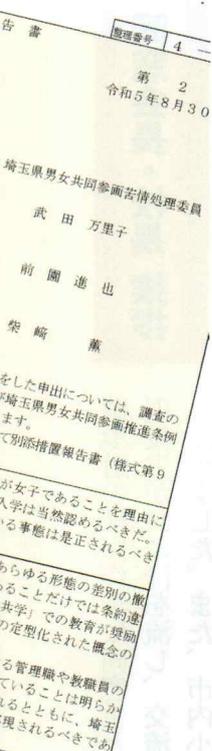
また、埼玉県立高校においては、今後もますます多様性が尊重される社会の中にあつて、公正な選抜により等しく学ぶ機会が保障されている下で、将来の社会を担う若者が自らの意思で種々の選択肢の中から別学校を選び、切磋琢磨しながら生き生きと学んでいる。

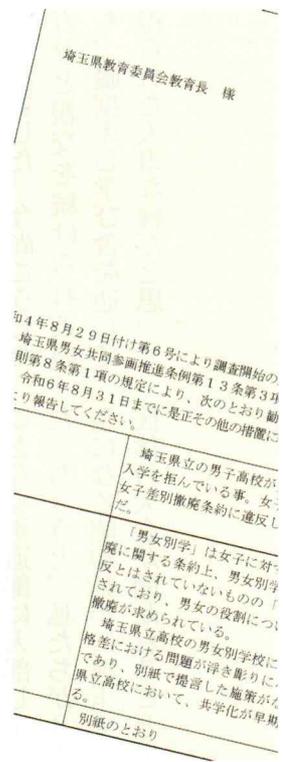
埼玉県男女共同参画苦情処理委員による勧告(以下「勧告書」)は、これらの埼玉県立高校における教育実践の成果を総合的に評価・検証することなく、一律に共学化を求めているが、埼玉県立高校の現状に鑑みると、別学校の存在自体が男女共同参画社会実現への課題解決に向けた障壁となり、早急に改める必要があるとは考えられない。

弊会は以上のことを踏まえ、標記勧告について下記のとおり意見を申し述べ、今回の「勧告書」の趣旨に基づく埼玉県立川越高校の共学化に異を唱えるものである。

記

1 「勧告書」では「社会的





な動向・他県の状況」として、福島、宮城、秋田3県の全校共学化と、群馬、栃木、千葉3県の別学校から共学化への経過について述べている。そして、その最後は、「…確かに生徒数の減少における再編とともに進められてきたという流れもあるものの、多くの県も謳っているように、男女共同参画のために共学化が必要であるとの認識は、すでに社会共通の認識に成熟しているものと考えられる。」(傍線部 弊会記載)と、ある。上記各県では「地域によって異なる人口動態や生徒減少(福島県・「県立高等学校改革計画」)、「少子化・過疎化による地域の生徒数の減少(宮城県・「新県立高校将来構想」)等が当面する共通の課題であり、その解決に向け、新時代

にふさわしい魅力ある県立高校をつくる再編整備の中で共学化にも取り組んできている経緯がある。しかし、埼玉県は人口動態が「自然減少・社会増加」の傾向にあること、埼玉県が東京都内高校への通学可能圏であるとの地理的條件が上記県と大きく異なっている。このことから、埼玉県では上記各県の取組を踏まえつつも県独自の視点で魅力ある県立学校をつくることが必要であると考えられる。

2 「勧告書」では、「これまでも男女共同参画に資する人材が育成されてきた経緯」を認め、女子校の共学化については論点として言及しないまま、「今回、調査・検討しているのは、あくまでも県立高校の問題」と限定し、「公費で賄われていることも考慮されなければならない」公的機関である県立高校が、性別に基つき異なった取扱いをなすのは大問題であるとしている。しかし、男女共同参画を推進する次代を担う若者を育成するという事業は、埼玉県のみならず国レベルで取り扱うべき大事業である。このことからすれば、男女共同参画

社会の実現を目指す取組は「公費で賄われていることも考慮されなければならない」、「あくまでも県立高校の問題」としてではなく、ここでは詳細に論じることは控えるが、程度の差こそあれ公費で賄われている私立高校の男女別学校をも含めた広範な課題として取り扱うべきであると考えられる。

3 「勧告書」では埼玉県立高校における男女別学校の管理職数や教職員数の格差問題について数字を挙げて指摘している。この指摘については、「女性の管理職への登用率は、埼玉県教育委員会全体で(さいたま市を除く)県費負担教職員を含む)、平成28年度に13・2%であったのに対し、令和2年度では17・4%と登用率は着実に上昇している(「女性活躍・子育て応援事業主プラン(後期計画)」埼玉県教育委員会 令和3年4月)ことを踏まえれば、男女共同参画を推進する上でも一層の環境整備が必要であることは言うまでもないことである。しかし、この指摘内容と共学化の早期実現とは全く別問題であると考えられる。

4 県西部に位置する県立川越高校のこれまでの魅力ある教育活動が広く地域社会に浸透し認められており、その結果として「ぜひ入学して学びたい」と願う中学生が多く存在している明らかな事実がある。この事実は、しなやかな感性と問題意識を有し入学してくる生徒に、「新たな時代に向けて、伝統ある進学校としての期待に応えつつ、自主自立の校風を継承・発展させ、リーダーとなる良識ある人材を育成(目指す学校像)」している結果である。男子校で「新たな時代に向けて…リーダー」となる良識ある人材を育成し、学校一丸となり日々の教育活動の中で男女の役割についての定型化された概念の撤廃にも的確に真摯に取り組んでいるからこそ、保護者からも地域社会からも信頼されているのである。「勧告書」にある、男女共同参画社会の実現を目指すために埼玉県立高校の男女別学校の早期共学化が不可欠であるとの見解に対し、県立川越高校に「ぜひ入学して学びたい」、「学ばせたい」と願う中学生やその保護者が多く存在している明らかな事実に基づいて、本勧告に対する措置を検討していただきたい。

5 毎年、県西部地区住民である高校生的一定数が、東京都内の国、私立高校に通学している。県西部の別学校である県立川越高校、川越女子高校には、そのような地理的条件的の中にあっても、例年多くの中学生が「ぜひ入学して学びたい」学校として自ら選択して受検、入学し学んでいる。当該校が位置している地域で現今の志願者数を維持しているような状況下で、当該校が共に共学化した場合、本来なら2校に入学を希望する一定数の生徒が、多様な選択肢の中から容易に都内の国、私立の別学校を選択し、入学し学ぶことになるのではないかと。魅力ある県立高校をつくる再編整備とは程遠い結果になることが十分懸念される。このことから、埼玉県立高校の共学化への検討は、地域や学校の実情を踏まえ総合的かつ慎重に判断していただきたい。(以上、引用全文)

地区初雁会の新会長挨拶



所沢初雁会
大館 勉
(高23)

昨年7月の定期総会にて、齋藤博前会長の後任として会長を仰せつかりました。

大役への不安と新型コロナが昨年5月に5類へと移行し「これから何を」と思案中に当会役員からの提案で、役員間をLINEで結んでの連絡・相談を始めました。同じころ、母校同窓会事務局からのアドバイスを得て、当会総会の様子や活動内容をHP上で発信することができました。

会創立時からの魅力は、世代を超え気楽に話せること。立場や経験をふまえた諸先輩の話は興味深く、貴重でした。また、吹奏楽部で苦楽を共にした仲間や、卒業後に知り合った同窓生にも何かと助けられました。今尚こうした方々と親交を続けられるのも、礎据えし学び舎を通して得られた大事な縁だと思つて

います。

今後、こうした縁に感謝し、

当会は「くすのき交流会所沢版」を目指して、引き続き事務局と連携して情報発信を行い、ひいては会員増につながれば幸いと考えております。

合わせて他初雁会の諸事業を参考にさせていただき、多くの会員が交流を深めるきっかけ作りと、「所沢初雁文庫」(図書購入費寄付)を少しでも充実させ、活躍する現役生を微力ながら支援できるように役員の方々と尽力していきたいと思つていきます。



坂戸初雁会
野口達雄
(高20)

昨年7月9日、4年ぶりに開催された総会で、同期の水純一前会長の後任として会長を仰せつかりました。よろしくお願いいたします。

高校時代は、中学から剣道を始めていましたので、迷うことなく剣道部に入部しました。ちょうど、私たちが3年生になる昭和42年に埼玉で国民体育大会が開かれることに

なっていましたので、顧問の

豊島正夫先生のご指導の下、

国体出場を目指し稽古(けいこ)に励みました。残念ながら出場は夢はかないませんでした。が、青春の良き思い出となつていきます。大学まで続けた後は遠ざかっていきました

が、勤務先の定年退職を機に稽古を再開し、地元で週に2〜3回汗を流しています。剣道は年齢を重ねてもできることから、これからも体調に留意しながら稽古を続けていくつもりです。

私も坂戸初雁会の現在の課題として、多くの初雁会にも共通することと思ひますが、運営に携わっている会員の高齢化があります。昨年の総会では、平成元年の卒業生までだった案内を平成10年まで広げましたが、結果はあまり芳しくはありませんでした。

今後は若い卒業生にも進んで参加してもらえ魅力ある会にしていくため、「くすのき交流会」や他の初雁会の活動も参考にさせていただき、模索していきたいと考えています。

同窓会役員会を開催

同窓会役員会が令和6年3月31日(日)午後2時よりセミナー室で開催され、役員29人が参加。根岸秋男同窓会長(高29)が挨拶で、令和5年度諸事業がつつがなく終了したことに御礼。「共学化」勧告で意見聴取を受けたことを報告。

小出和重校長は意見聴取に同席した感想や、今春の国立難関大学に現役合格した生徒の生活態度、合格者数の変化について過去の実績と比較して説明。部活動等の活躍にふれました。

議事では、令和5年度事業・会計決算報告、令和6年度事業・会計予算等について承認されました。

議事終了後の報告では、根岸同窓会長が2月に実施された「共学化」意見聴取の際に県教育長あてに提出した意見書について説明。意見書は同窓会役員各位から助言等を頂き完成したも

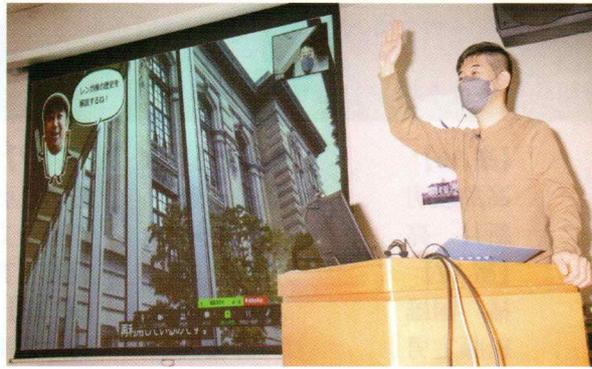
ので、改めて資料として配付。説明の中で、根岸会長は県男女共同参画苦情処理委員が県教育長に提出した勧告書全文を踏まえて作成した、母校の共学化に異を唱える5つの観点について具体的に話しました。

役員会では根岸同窓会長の説明や、4月に発行予定の「川高同窓会報」(第80号)に意見書全文を掲載することで同窓会員に周知を図ることも承認されました。



「くすのき未来塾」を3回開催

新型コロナウイルス感染症が5類に移行したことを受け、基本的には川越高校セミナー室での講座開催にしましたが、さまざまな事情でオンライン受講を求める参加者の声もあると考え、対面講座をオンラインでも同時配信する形を含め3回実施しました。



●第11回 10月21日 『国立国会図書館』って、 どんなところ?』

阿部 泰(高42)

国立国会図書館総務部管理課長
図書館そのものは学校や地域で子どもに身近な存在ですが、「国会図書館」を利用したこのある子どもはまずいませぬ。「国立」で唯一の「国

会図書館」について、そもそも設立の由来や現在の蔵書(4千685万冊)と活動、利用の仕方などについて説明がありました。年々図書は増え続けていますが、これは永久保存が義務付けられていること、3館ある国会図書館のうち、上野にある「国際子ども図書館」の存在は子供たちの興味を引き、「国会図書館」を身近に感じることができたようでした。

当日受講者は、会場15人と保護者約10人、オンライン7人でした。

●第12回 12月9日 『ごみからくらしを考えよう!』

寺園 淳(高36)

国立環境研究所
資源循環領域上級首席研究員
ごみ問題について、江戸時

代・高度成長期・現代と、時代ごとの様子をとりえ、川越を例として、東京や地形との関りなども含めて講義。

海洋プラスチックやリチウムイオン電池の問題など、現代の新しい課題についてもふれられ、川越市のゴミの処理状況・リサイクルの状況など、自分たち自身の生活から生じるゴミがどのように処理されているか、その最後はどうなるのかという問いを、子供たちも真剣に考えていました。

また、保護者の関心が高かったことがアンケートからうかがえました。

当日受講者は、会場16人と保護者12人、オンライン6人

でした。

●第13回 3月9日 『可能性は無敵大!』 手作りロボットの世界!』

西原徹男(高28)

ブリッジテクノロジー(株)代表取締役

安く手に入りやすいラズベリパイという基板を使ったロボットの作り方を通じ、自分の夢がどのようにして形にできるかというプロセスの説明から始まり、講師が手作りしたロボットの反応や動きを実演して見せました。

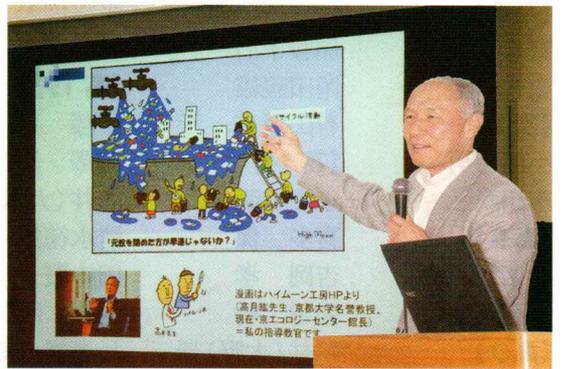
「子どもたちに、動くロボットを目の前で見てもらいたい」という狙いもあり、会場受講のみで実施。

申込者が118人と通常定員の倍以上だったので、ロボットは会場の中央に置いたテーブルの上で動かし、受講者用の机は取り除きました。

またどの位置の受講者からも動くロボットが見えるように、カメラで撮した

ロボットを講義用とは別のスクリーンに映し出す「ダブルスクリーン」で実施。会場のセミナー室は参加した子どもたちでいっぱいになり、その周りを保護者が取り囲んで行われました。

時々講師から発せられる質問にあちこちからたくさん手が挙がったり、ロボットの反応に歓声が上がると、ロボットに対する子どもたちの関心の高さがうかがえました。当日受講者は、小学生84人と保護者約30人でした。



総会記念講演(概要) 令和5年5月28日

「大学発ベンチャーが世界を変える」

1人の研究者が経験している化学産業の例

東京工業大学 名誉教授 和田雄二(高25)

退職して初めて会社員に

東工大教授として教育研究に携わった後、2020年3月に定年退職しました。私は、大学で進めてきた科学研究を社会に実装することで初めて役立つ学問になると考えていました。そこで、退職後は研究成果を基に立上げ初期にも関わった大学発ベンチャー企業で初めて会社員として、3年半働きました。大学の研究は、基礎学問から実業に近いものまで幅広く行われており、私の研究経験は基礎から応用まで広く関わった一つの例かと思っています。

カーボンニュートラル(CN)対策とは

今なぜ二酸化炭素の排出が問題なのか。近年、度重なる酷暑や洪水・干ばつなど異常気象は、地球温暖化を原因とするものではないか。地球の

平均気温上昇が二酸化炭素(CO₂)の温室効果による

温暖化の影響であることは、

全世界の共通の認識です。日

本は、他国と歩調を合わせた

カーボンニュートラル(CN)

対策として、2050年にC

O₂排出ゼロの達成を宣言し

ました。自動車・鉄道など交

通・情報活動・そして私たち

の日常生活では、エネルギー

を熱・動力・電力・電波とし

て消費していますが、エネル

ギーの源は石炭・石油の燃焼

熱です。この燃焼からCO₂

が排出されるので、それをゼ

ロとする方策を2050年ま

でに用意することがCN対策

です。世界で5番目のCO₂

排出国である日本の年間全排

出量は11・1憶トンであり、

産業部門はその4分の1を占

めています。私の研究対象で

ある石油化学工業でも、エネ

ルギーは石炭・石油の燃焼熱から供給するので、大量のC

O₂が発生します。従って、CO₂発生が極めて少ない再生可能エネルギー、すなわち太陽光・風力・地熱を利用して発電した電力を用いた「産業電化」は、化学工業のCN対策の柱なのです。

マイクロ波化学とは？

皆さんが、ご家庭で食品加熱に使っている電子レンジと同じ物理原理に基づく加熱技術を用いて、今までの石油燃焼加熱技術を置き換えて化学製造をするのが「マイクロ波化学」です。さまざまな化学品の製造では石油や石炭の燃焼熱が使われており、ここから大量のCO₂が発生するので、極力CO₂発生が少ない「再生可能エネルギー」を基に発電した電力を使って化学製品の製造をするのが「化学産業の電化」です。そして、「再生可能エネルギー」発電電力により発生したマイクロ波により化学反応を起こすのが「マイクロ波化学」です。

マイクロ波加熱では外部からの熱伝導が必要なく、直接物の内部から急速に加熱できます。また、加熱されやすい



ンチャー(マイクロ波化学株式会社)の起業につながりました。この会社によって、実際の化学製造プロセスをマイクロ波化学で動かす事業が化学企業に採用され始めています。今では、マイクロ波化学を用いれば多くの化学製品製造プロセスがより温和な条件で進めることができ、結果的にCO₂排出量を削減できます。これは過去80年近く変わらなかつた石油化学工業を変革する挑戦です。

講演を終えて(追記)

2023年10月に、私は行政・地方自治体・市民の皆さんとCN対策活動を進めるため、(社)Zerocを立ち上げました。CNの重要性和その具体的かつ効果的対策を皆さんと情報共有し、それぞれの立場でできる活動に落とし込んでゆくための組織です。高

マイクロ波加熱でできた新物質そして石油化学へ

私の大阪大学時代の研究で取得した、マイクロ波加熱を用いたニッケル金属ナノ粒子製造の特許が、大阪大学発ベ

校生の皆さんにも対策提案もしてもらいたいと考えており、川高化学部とも活動を始めました。来年には、活動に関する何らかの発信を川高化学部からしてもらえらと思

います。ご期待ください。

文化講演会 (生徒対象)

医学・医療の道を選ぶとどういふこと

東京慈恵会医科大学 学長 松藤 千弥 (高29)

日時: 12月15日13時半~15時半

会場: 体育館アリーナ (1・2年)、HR教室 (3年)

私は1977年に川越高校を卒業したので、皆さんのかなり先輩ということになります。卒業したら医学部に行くことは、入学前から決めていました。高校時代は勉強もしましたが、それ以上に部活動でバレーボールに打ち込み、全国大会に出場する機会も得ました。



卒業後は東京慈恵会医科大学(慈恵医大)に進学し、臨床研修と基礎医学の大学院を経て、教員になり、医学研究と学生教育を担いました。約10年前からは、同大

す。また、国民皆保険制度と医療機関へのフリーアクセスによって、日本は最も医療を受けやすい国だと言えます。一方で、国の総医療費は年間約50兆円に上り、国民総所得の約1割を占め、多くの税金が投入されています。少子高齢化の進行により、働く世代のしかかる医療費の負担はさらに増える見込みです。医療従事者に目を向けると、現在、日本の就業者の8人に1人、つまり約900万人が医療・福祉分野で働いており、2040年には1070万人

が必要となるとされていますが、これを確保できる見通しは立っていません。つまり、医療分野の仕事には大きなチャンスがあるということです。

専門性を持つ医療者が働いています。病院には、医師・歯科医師・看護師・薬剤師のほか、理学療法士・作業療法士・言語聴覚士などのセラピスト、診療放射線技師・臨床検査技師・臨床工学技士・管理栄養士・義肢装具士などの国家資格を持つ専門職がいます。公認心理師も国家資格になりました。現代の医療に合わせて、認定遺伝カウンセラーやスピリチュアルケアワーカー等の新しい専門職も生まれています。

2つの医療現場と働く専門職

医療現場は、大きく2つに分けられます。一つは専門医療・急性期医療・救急医療などを担う大きな病院です。もう一つは地域医療で、慢性期の病気や、介護・生活支援を対象とし、主に開業医、訪問診療医・看護師、福祉施設などが担っています。それぞれの医療現場では、さまざまな

地域医療の現場を担うのは、医師・保健師に加え、介護福祉士、社会福祉士・精神保健福祉士などの国家資格を持つ専門職です。また、調整役である介護支援専門員(ケアマネージャー)も重要な役割を果たします。病院でも地域医療の現場でも、医師を含むこれらの職種は、それぞれの専門性を活かし、緊密に連携してチーム医療を行っています。

日本の医療

まず、日本の医療のレベルの高さを知っていただきたいと思えます。これは、平均寿命・健康寿命・総合的健康達成度などの指標から明らかで

3つのポイントの皆さんに

まず、これらの職業の専門性は、医学・医療の進歩とともに高度化し、そのための

医療者に必要な資質

医師を含むこれらの医療職を目指す際に、必要な資質は何でしょうか。最も大切なのは「利他的であること」だと思います。また、「人を理解する能力」と「チームではたらく能力」も重要ですが、この2つは医療を学ぶ過程で高められることができます。「人が幸せであることが自分の幸せ」だと思える人は、ぜひ医療者への道を検討してみてください。

第23回「川高くすの木俳句大会」のご案内

本年も次のとおり開催しますので、母校関係者はもとより幅広い方々が参加されますようご案内いたします。

日時 8月31日(土)

受付 正午より

句会 午後1時～5時

会場 川高図書館2階

セミナー室

投句 夏・秋 雑詠3句

投句先 350・0053

川越市郭町2の6

県立川越高校同窓会

投句締切 7月27日(土)

当日消印有効

会費 当句3句につき1千円

郵便小為替にて

在校生は無料

選者 齋藤弘行氏(高3)

東洋大学名誉教授

本阿弥秀雄氏(高18)

「本阿弥書店」顧問

勝浦敏幸氏(高21)

「爽樹俳句会」代表

○第22回俳句大会作品集より

第22回俳句大会は、コロナ禍のため、紙上句会となりま

したが、卒業生や母校関係者などのべ16人、在校生は144人が応募しました。

『卒業生の部』

一世紀校門守るや樟若葉

斎藤弘行(高3)

浜焼きの串の大振り洪団扇

故・岡部つねを(高15)

柔肌に歯を当て女人桃鬢る

小林幸二(高17)

さまざまの祈りの中の夏祭り

大嶋文明(高20)

江戸からの荷降ろす河岸や夏

柳 勝浦敏幸(高21)

祭笛まねぶ小江戸の生まれか

栗原由郎(高21)

特攻の決意に出会い敗戦日

一瀬 要(高23)

白南風・や校門までの緩き坂

市川英一(高23)

『在校生の部』

(天)

汗にじみ楽譜手に付く放課後

練 中島仙太(1・C)

(地)

帰り道遠のいてゆく祭囃子

谷本幹太(1・F)

(人)

晴天にくすのき湧かす水狂言

嶺岸優真(1・G)

夕立に遭いてなお漕ぐ坂の帰路 塩野 真(1・C)

天の川織姫不在男子校

千石大地(1・F)

蝉の声五限目からは子守歌

窪田大志(1・F)

せせらぎや天地逆さま天の川

石井蒼大(1・G)

立夏過ぎ自販機行くも赤ばかり

高橋陽向(1・G)

うるせえよ蝉うるせようるせ

えよ 桐山 涼(1・G)

見上げるとどっかい雷が泳いでる

山根聡太(1・C)

的前で静かに揺れる草の花

安達壮汰(1・H)

夏休み練習量なら甲子園

富嶋俊介(1・H)

流れ星ため息つきに尾が光る

鎌北哲平(1・G)

暑くとも皆立ち止まる時の鐘

鎌北哲平(1・G)

追いかける左右に揺れる扇風機

濱辺龍誠(1・I)

提灯の照らす街並み天の川

逸見悠斗(1・H)

月例会のお知らせ

月例の「川越吟行句会」参加者を募ります。奇数月は川越周辺の散策、

偶数月はオンライン句会を行います。左記に登録願います。
<https://ntgm.nolimbre.com/kawagoe/>

詳細は、管理者の市川英一氏(高23)のアドレス myoujin.1ei@gmail.com にご連絡下さい。

「くすの木囲碁クラブ」の活動

●四校親睦囲碁大会(敬称略)

11月19日

4年ぶりに、春日部高校同窓囲碁クラブの主管のもと同校大会議室で開催されました。当クラブから加藤公男(高5)、友常峰雄(高9)、渡辺好幸(高13)、山川均(高18)、橋本光男(高18)、田端一晴(高20)、佐藤翔(高52)、鈴木正男(高17)の8人が参加し、親ぼくを深めることができました。



今回初参加の佐藤翔は、遠く仙

台から駆け付け、「母校セミナー室での定例会への参加以外に、埼玉に帰って他校同窓生と囲碁を通して交流できた。今後ぜひ参加したい」とのことでした。

●伊香保の陣
2024年2月28日・29日
3年ぶりの開催となり、雪の残る伊香保の湯と囲碁三昧で、楽しい一時を過ごしました。

参加者は、加藤公男(高5)、吉田正(高10)、新井望丕(高15)、平野満(高16)、山川均(高18)、橋本光男(高18)、田端一晴(高20)、鈴木正男(高17)の8人でした。

2024年度の主な活動予定は次のとおりです。

- ①定例会 原則奇数月の最終土曜日
- ②四校親睦囲碁大会 11月10日(第10回開催として、当クラブが当番になります)
- ③伊香保の陣 2月末

くすの木囲碁クラブでは、会員を募集しております。興味のある方は同窓会事務局までご一報くださるようお願いいたします。

令和5年度事業報告 (案)

- 4月22日 (土) 『川高同窓会報』(第79号) 発行
- 5月28日 (日) 同窓会総会・記念講演会 (和田雄二氏)
- 6月23日 (金) 「川高初雁の森」事業部会 下刈作業
- 7月29日 (土) くすの木囲基クラブ例会
(以降 12月2日 (土)、3月30日 (土))
- 8月下旬 第22回「川高くすの木俳句大会」誌上句会
- 9月24日 (日) 第10回「川高初雁の森」植樹祭
- 10月21日 (土) 第11回「くすのき未来塾」
- 10月28日 (土) 同窓会報編集委員会
(以降 2月3日 (土)、3月23日 (土))
- 10月29日 (日) 秋季散策会 (東松山初雁会)
高坂・岩殿観音 周辺散策
- 11月19日 (日) 4校 (浦和高、熊谷高、春日部高、川越高)
同窓会親睦囲基大会
- 12月9日 (土) 第12回「くすのき未来塾」
- 12月16日 (土) 第1回「くすのき交流会」
- 3月9日 (土) 第13回「くすのき未来塾」
- 3月26日 (火) 会計監査
- 3月31日 (日) 同窓会役員会

令和6年度事業計画 (案)

- 4月22日 (月) 『川高同窓会報』(第80号) 発行
- 5月26日 (日) 同窓会総会・記念講演会 (花岡達也氏)
- 6月21日 (金) 「川高初雁の森」事業部会 下刈作業
- 8月31日 (土) 第23回「川高くすの木俳句大会」
- 9月29日 (日) 第11回「川高初雁の森」植樹祭
- 10月 中旬以降 同窓会報編集委員会 (～令和7年3月まで)
- 11月30日 (土) 第2回「くすのき交流会」
- 12月 8日 (日) 秋季散策会 (新座初雁会) 野火止用水・平林寺散策
- 3月 下旬 会計監査
- 3月30日 (日) 同窓会役員会
- * 各地区初雁会：定例総会、記念講演会、懇親会等
- * くすのき未来塾 (年度内3回開催)
- * 川越吟行句会：川越周辺散策かオンライン句会 (毎月)
- * くすの木囲基クラブ：奇数月最終土曜日、
4校同窓会親睦囲基大会



**「川高初雁の森」
第10回植樹祭報告**

9月24日 (日)、第10回植樹祭が開かれ、昨年に続いて遊歩道にウッドブロックを敷く整備が行われました。参加者は同窓生37人に加えて学校側からは応援部・放送部・生物部・山岳部・新聞部・生徒会本部の計29人の生徒と、引率の同窓教員2人。

恒例の挨拶、現役応援部による校歌・応援歌で開幕。作業は同窓生・現役生混成で10班に分かれ、飯能市農林部森林づくり推進課の指導の下で行われました。

秋季散策会報告

9月29日 (日)、東松山初雁会主催の秋季散策会が、58人が参加して行われました。高坂駅西口に集合。駅から西に続く高田博厚の彫刻プロムナードを散策。現地の「高田博厚と遊ぼう会」の方の説明を聞きながら鑑賞しました。

その後はマイクロバスで岩殿観音に移動し、岩殿観音住職から岩殿観音や鎌倉武将・比企能員(ひきよしかず)にまつわる説明を聞きました。その後は思い思いに物見山から平和資料館への散策路を歩

ました。昨年の経験が生かされて整備作業は2時間足らずで終了し、その後は近くのあずまやで弁当を広げて歓談。生徒は「川高初雁の森」の中腹にあるウッドデッキに上り、名栗湖畔を眺めながら昼食をとりました。



きました。平和資料館では戦争関係の展示見学だけではなく、展望塔に上がって、東京方面から北側の赤城山方面を見渡すことができました。

散策後はバスで東松山駅近くの紫雲閣に移動して懇親会が行われ、旧交を温めました。

稲やかな秋の日和の下、東松山初雁会の方々の周到な準備のおかげで、充実した散策会でした。



在校生から見た川高の1年 (新聞部長)

コロナが5類に移行する中、学び舎での高校生活はどうなったのか。現役の生徒の視点・感覚で伝えてもらうため、川高新聞部の神山翔吾部長から頂いた寄稿を掲載します。

川越高校新聞

川越高校では昨年からコロナ禍からの脱却が始まり、いろいろなイベントが復活していききました。そして今年はいきま「完全脱却」とでも言うべきか、すべての行事で制限なし開催を果たしました。

新1年生からタブレット導入

今年入学した1年生(78期生)からGIGAスクール構想によって授業にタブレットが導入され、1人1台購入することになりました。これによって教科書のデジタル化等が進み、タブレットを見ながらの授業という新しい授業スタイルが始まりました。

4年ぶりようやく戻った行事

コロナが流行してから4年が経ち、ようやく完全に元通りになってきました。去年から少しずつ行事等の規制が緩和されていましたが、今年ほど

の行事で変化があったのだからかと思ひ考えてみました。まず生徒研究発表会(次頁参照)が一般公開され、保護者の方などさまざまな方が見学できるようにになりました。また、強歩大会では従来通りのコースに戻り、くすのき祭は入場者数制限なしでの開催となりました。

くすのき祭来場者1万4000人超

今年から完全に制限なしで「くすのき祭」を開催できるようになり、2日間で1万4000人を超える方が来場しました。これはコロナ流行前の2019年に並ぶ来場者数で、1年目でコロナ前の盛況を取り戻すという偉業を成し遂げました。



内用のスリッパが足りなくなるなど、ちよつとしたミスはあったものの結果的には大成功を収めました。

共学化問題が再来

今年を振り返ったときに一番大きな出来事は何かと言われると、早期共学化の実現を求める勧告が県教育委員会に提出されたことでしょう。川越高校は2002年にも共学化の動きを受けており、県教育委員会が苦情処理委員から勧告を受けたことをきっかけに始まりました。今回も県教育委員会が苦情を受けて動き始め、2024年の8月までに結論を出すこととなります。

今回の苦情は「別学がジェンダー平等に反しており、また別学の管理職における性差が著しい」という理由で提出されました。ジェンダー平等は現代社会で叫ばれている問題の1つなので、今回共学化するにしろ別学を維持するにしろ、今一度考えていかなければならないと思います。

川越高校ではアンケートによる意見調査が行われ、新聞部が行ったものでは回答率が

21%と低いものの共学化に反対が80%と多くの生徒が反対の意思を示しました。

令和6年度は共学化が大きな問題になると思います。周りに流されるだけにならず、自分の意見をしっかりと持って次の動きに備えていきたいと思っています。(令和5年末寄稿)

人事異動

◆退職

教諭 坂東 正己
主任 新井 直子

◆転出

教頭 菅崎俊幸 越生高校教頭
教諭 柿崎 隆己 小川高校
" 吉澤 悟 川口東高校
" 坂西 拓也 上尾南高校
主任 柳澤 美貴子
川島ひばりが丘特別支援学校

◆任期満了

教諭(再) 小泉 光男
" 鈴木 沢子
" 粟飯原 進

講師(臨)

市谷 史生 川越初雁高校(再)
坂戸高校(臨)
山本 清美 蕨高校(臨)

教諭(臨)

渡邊 高宏 大宮高校(臨)

" 水嶋 雅之 鴻巣高校(新)

" 宮田 卓弥 川口北高校(臨)

非常勤講師 青野 博由 川越女子高校(非)

" 新津 雅之 星野高校(非)

◆転入

教頭 塩原 めぐみ 県高校教育指導課指導主事
教諭 瀧嶋 明康 和光国際高校

" 平 美和子 朝霞西高校

" 堀江 寛将 越生高校

" 岡田 智美 ふじみ野高校

" 西本 友朗 飯能高校

" (臨) 熊崎 一麦 所沢中央高校(臨)

" 大西 洋介 蕨高校(臨)

主事 山崎 澄音 川越女子高校主事

非常勤講師 高野 弘彦 川越工業高校(再)

教諭 今井 雄平

非常勤講師 坪井 正 川越女子高校(非)

川越高校 サイエンス探究事業

「川高サイエンス探究事業」は11年間指定されたスーパーサイエンスハイスクール(SHS)事業の後継事業で、同窓会奨学財団・後援会のご支援を受け実施しております。

令和5年度 主な実績

●2023かごしま総文出場
7月に行われた「かごしま総文」に、サイエンス探究Dグループのチームが埼玉県代表として出場し、「ペットロボトルケットの内圧と高度」の研究を発表しました。



●科学教育振興展覧会

9月の「科学展」にて、サイエンス探究Bグループの「オニヤンマ模型の虫除け効果の検証」が優秀賞を受賞し、12月の日本学生科学賞へ出展しました。また、来年度の「2024かごしま総文」への出場が決まりました。

●科学の甲子園 部門優勝

「第13回科学の甲子園埼玉県大会」が11月に行われまし



た。23校37チームが参加した中で、川高チームは「筆記の部」で優勝を果たしま

●ロボカップジュニア

「ロボカップジュニア埼玉ブロック大会」が1月に行われ、本校の災害救助ロボットの「レスキューメイズ」種目で優勝を果たし、「ジャパンオープン2024名古屋」への出場を決めました。



●理科教育研究発表会

2月、埼玉大学にて「理科展」が行われ、県内の高校生が互いの研究成果を発表し合いました。大学の先生方からも探究を進める上での貴重なアドバイスを頂きました。



●地学オリンピック本選

サイエンス探究Aグループ

に所属する1年 浅野空君と、2年 手塚汰朔君が、「第16回日本地学オリンピック」本選に出場。中学生1千578人から1次・2次予選を通過し、63人に選ばれる快挙を成し遂げました。

1年間の取り組み

●総合的な探究の時間

「サイエンス探究Ⅰ・Ⅱ」今年度は1年生59人、2年生38人が選択しました。

- A 地球環境
 - B 生命と物質
 - C 環境分析と物質の変化
 - D 物質とテクノロジー
- の4分野に分かれ、研究・プレゼン能力の育成を目標に、「総合的な探究の時間」を中心に活動を行いました。

●生徒研究発表会

5月6日、サイエンス探究事業の集大成となる生徒研究発表会が開催されました。ノーベル物理学賞受賞者でOBでもある梶田隆章先生をはじめ、理化学研究所の加賀屋悟先生、武蔵野学院大学



の福田直先生をお招きし、ご指導いただきました。講評では、探究の質を高める上で、質疑応答のやりとりの大切さをアドバイスいただきました。



●全校講演会

11月、理化学研究所の橋田浩一先生をお招きし、「グラフを作って思考力を高める」というテーマでご講演いただきました。AIの進歩と学校での学びを結びつけた話で、生徒の関心の高さがうかがえました。

●糸魚川巡検(A)

8月、新潟県糸魚川市で合宿を行いました。世界ジオパークにも認定されており、フィールドならではの学びが多く学びがありました。



●KEK見学・実習(D)

研究機関との連携による特別講座として、茨城県つくば

市のKEK(高エネルギー加速器研究機構)において見学・実習を行いました。

●大学研究室見学(B)

早稲田大学 先端生命医学センターを訪問し、模擬講義や施設見学を行いました。大学院生の研究生活についても話を聞くことができました。



●冬休み科学教室

12月、川越女子高校を会場に実施しました。市内の中学生に向けて、サイエンスの面白さを伝えることができました。



SSH事業に続き「川高サイエンス探究事業」への多大なるご支援に深く御礼申し上げます。今後ともよろしくお願いたします。

(学習企画部 村上 健)

2024年度 大学等入試合格状況一覽

2024年3月31日現在

国立	合格		入学	
	総計	(現役)	総計	(現役)
北海道大	7	(4)	5	(3)
東北大	19	(15)	17	(13)
筑波大	7	(6)	6	(5)
群馬大	4	(4)	3	(3)
埼玉大	13	(10)	11	(9)
千葉大	5	(3)	3	(1)
東京海洋大	1	(0)	1	(0)
電気通信大	9	(7)	9	(7)
東京大	7	(3)	7	(3)
東京外大	2	(2)	2	(2)
東京学芸大	4	(3)	3	(3)
東京芸大	2	(1)	1	(1)
東京工業大	10	(7)	10	(7)
東京農工大	12	(6)	10	(5)
一橋大	7	(7)	7	(7)
横浜国立大	6	(5)	5	(5)
富山大	1	(0)	1	(0)
金沢大	1	(1)	1	(1)
信州大	5	(2)	5	(2)
名古屋大	2	(2)	2	(2)
三重大	1	(1)	1	(1)
京都大	2	(0)	2	(0)
京都工芸 繊維大	1	(0)	1	(0)
大阪大	1	(0)	1	(0)
神戸大	1	(0)	1	(0)
愛媛大	1	(1)	1	(1)
計	131	(90)	116	(81)

私立	合格		入学	
	総計	(現役)	総計	(現役)
東北医薬大	1	(0)	0	(0)
駿河台大	2	(0)	1	(0)
聖学院大	1	(1)	0	(0)
獨協大	7	(0)	1	(0)
文教大	7	(5)	2	(2)
ものづくり大	1	(1)	0	(0)
千葉工大	1	(1)	0	(0)
青山学院大	28	(17)	8	(6)
亜細亜大	1	(0)	0	(0)
学習院大	14	(8)	2	(1)
北里大	3	(2)	1	(1)
慶応大	28	(18)	14	(10)
工学院大	19	(12)	5	(1)
国学院大	3	(1)	0	(0)
国土館大	3	(3)	0	(0)
駒澤大	13	(8)	3	(3)
芝浦工大	34	(18)	6	(4)
順天堂大	5	(5)	1	(1)
上智大	23	(13)	3	(3)
昭和大	1	(0)	1	(0)
成蹊大	9	(5)	1	(1)
成城大	5	(1)	0	(0)
専修大	5	(2)	1	(0)
大東文化大	6	(3)	1	(1)
多摩美大	2	(2)	1	(1)
中央大	70	(46)	24	(18)
帝京大	2	(2)	0	(0)
東海大	6	(3)	1	(0)
東京工科大	2	(2)	0	(0)
東京電機大	26	(14)	3	(2)
東京農大	7	(6)	1	(1)
東京理大	91	(39)	7	(3)
東洋大	70	(48)	7	(5)
日本大	17	(7)	3	(1)
日本医大	1	(0)	0	(0)
法政大	62	(41)	7	(6)
星薬大	1	(0)	0	(0)

私立	合格		入学	
	総計	(現役)	総計	(現役)
武蔵大	4	(3)	0	(0)
東京都市大	19	(1)	1	(1)
武蔵野大	2	(2)	1	(1)
武蔵野美大	3	(1)	3	(1)
明治大	115	(85)	21	(17)
明治学院大	2	(2)	0	(0)
明治薬大	4	(1)	1	(1)
明星大	1	(1)	0	(0)
立教大	35	(24)	7	(7)
立正大	1	(0)	0	(0)
早稲田大	88	(60)	36	(30)
デジハリ大	3	(2)	2	(1)
神奈川歯大	1	(0)	0	(0)
マリアンナ医大	1	(0)	1	(0)
同志社大	1	(0)	0	(0)
立命館大	1	(0)	1	(0)
近畿大	1	(1)	0	(0)
計	859	(517)	179	(130)

大学校	合格		入学	
	総計	(現役)	総計	(現役)
防衛大学校	1	(1)	1	(1)
職業能力開発 総合大学校	1	(1)	1	(1)
計	2	2	2	2

公立	合格		入学	
	総計	(現役)	総計	(現役)
旭川市立大	1	(1)	1	(1)
会津大	2	(1)	2	(1)
東京都立大	1	(1)	1	(1)
横浜市立大	1	(1)	1	(1)
新潟県立大	1	(0)	1	(0)
兵庫県立大	1	(1)	1	(1)
計	7	(5)	7	(5)

部活動の主な活躍 (敬称略)

●陸上競技部

関東高校陸上競技大会
三段跳 出場 石井采
斗(3年)、やり投げ
6位
榊原凌
真(3
年)、
高校総
体出場
榊原凌
真(3年)、
第27回関東高校新人大
会5000m競歩出場
松本宗士(2年)、
同大会円盤投出場
野悠輝(2年)、
同大会800m出場
花岡慧伍(2年)



クール金賞

●生物部

日本学生科学賞
佐藤正宗(2年)、日
置貫太(2年)

●古典ギター部

第48回高文祭埼玉県代
表選考会 県代表決
定

●弦楽合奏部

第48回高文祭埼玉県代
表選考会 県代表決定

●ラグビー部

第24回関東高校ラグ
ビー都県対抗戦Aブ
ロック1位

●地学部

第16回日本地学オリ
ンピック本選出場(17頁
参照)

●料理部

公推協力カップ 第1回
ご当地おむす美大賞
出品

●新聞部

第47回高文祭出展
奨賞

●美術部

第47回高文祭出展
横山大嗣(3年)

●音楽部

第78回関東合唱コン

事務局だより

叙勲・褒章等受賞者(県内)

◆春秋叙勲

令和5年春

旭日中綬章

岡田 茂 (高23)

産業振興功勞

元・昭和産業(株)社長

旭日双光章

中里 健壽 (高23)

建設業振興功勞

(一社)埼玉県建設業協会

副会長

瑞宝小綬章

内田 徹 (高23)

教育功勞

元・公立高等学校長

瑞宝双光章

藤野 正秀 (高22)

教育功勞

元・公立中学校校長

◆高齢者叙勲

瑞宝双光章

時田 敏夫 (高6)

地方自治功勞

元・埼玉県大宮家畜

保健衛生所長

※事務局では、内閣府ホームページより埼玉県内在住本会同窓会員の当該年度の勲

章・褒章授与対象者を「会員名簿」より調べて「同窓会報」に掲載していますが、授与対象者の掲載漏れを懸念しています。

そこで次年度以降は、埼玉県内外を問わず、勲章・褒章を授与された本会同窓会員より事務局あてにご連絡いただき、その情報と併せて調べ掲載します。

2024年度のご案内

新座初雁会

「晩秋の野火止用水と平林寺を歩く」

●日時

12月8日(日) 午前8時半

●集合場所

JR武蔵野線 新座駅改札

●懇親会場 ベルセゾン

新座市東北2の27の14

☎048・475・1122

●受付 午後1時 開宴2時

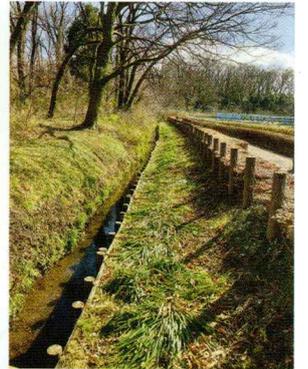
●参加費

8千円(同伴者6千円)

●散策コース 新座駅↓ふるさと新座館↓野火止用水↓野

鳥の森↓睡足軒↓平林寺↓

(路線バス移動) ↓懇親会場



●見どころ

「野火止用水」1655年に川越藩主・松平伊豆守信綱によって玉川用水から分水して引かれた全長24kmの用水路。武蔵野の開発の一環として造られ、300年以上の永きにわたり生活用水として使用されてきました。



「睡足軒」松永安左エ門(耳庵)が飛騨高山の江戸後期の民家を移築し、草庵とした建

物。茶道など日本伝統文化の活用のもととして利用されています。

「平林寺」臨濟宗妙心寺派の禅寺。南北朝時代の1375年創建。1663年に松平信綱の遺令により、岩槻から現在の野火止の地に移転されました。境内林は国の天然記念物に指定されています。



◆寄贈図書

・丸 章夫 (高8)

「コンクリートの鉱物化学」

・毛須征弘 (高13)

「回想くドイツを巡る旅」

・高島敏明 (高16)

「日本文明論と地域主義の実践」

・藤 英樹 (高30)

「俳句500年 名句をよむ」

・関口和也 (高34)

「埼玉の戦争遺跡」

・玉居子精宏 (高47)

「忘れられたBC級戦犯ランソン事件秘録」

・北元健太 (高54)

「オーストラリア 特許・意匠・商標法」



◆ 総会のご案内 ◆

日時 5月26日(日) 午前9時30分より受付

会場 ラ・ボア・ラクテ (4階ベガ)

川越市脇田本町22-5 ☎ 049(243)6600



・総会 午前10時～10時50分

・記念講演 午前11時～正午

講師 花岡達也氏 (高45)

国立環境研究所 社会システム領域 室長

演題 アジアにおけるカーボンニュートラル社会の実現への道筋
～気候変動と大気汚染の同時解決にむけた緩和シナリオ研究～

・懇親会 午後0時20分～2時20分 (会費7,000円)



参加申込はこちらから

※ 申し込みは左のQRコードからか、
同封のハガキのいずれかをお願いします。

締切は5月14日。

会費は会場で頂きます。

やむを得ず中止する場合は、
ホームページ (下記) に掲載します。



同窓会ホームページを活用して下さい ▶ <http://alumni.gnk.cc/kawagoe/>

次の予定や報告について事務局までご連絡下さい。同窓会ホームページ等で紹介します。

- 1 各地区初雁会・初雁医会の総会や行事
- 2 全日制学年同窓会や部活動OB会・その他活動
- 3 定時制学年同窓会や部活動同窓会 (OG会等)・その他活動
- 4 同窓会員の顕著な活動

同窓会事務局の連絡先

専用電話 & FAX 049(225)9071 (月～金、10時～16時)

メールアドレス: alumni@hb.tp1.jp

編集後記

10数年にわたり、事務局長として同窓会の運営、編集委員として会報の発行、奨学財団の発足に尽力されてきた岡部恒雄さん(高15)が、昨年10月16日に逝去されました(享年79)。これまでの功績に感謝申し上げるとともに、心からご冥福をお祈りします。

さて、80号では動き始めた「くすのき交流会」を特集。同企画運営委員会の報告を基に、その成果・課題・これらに着目しました。また、約20年ぶりに押し寄せた「共学化」の波。在校生や保護者・同窓生・教職員などに賛否の声が上がるなか、本号では県教育長に提出した同窓会の「意見書」を全文掲載しました。

編集部では、皆さんの声を生かした同窓会報作りに努めています。ご意見・ご要望をお待ちしています。(大澤)

- 尾崎勝美(高11) 故・岡部恒雄(高15)
 圓山壽和(高17) 栗原忠男(高20)
 栗原由郎(高21) 一瀬 要(高23)
 金子保夫(高25) 野口 孝(高25)
 柄川昭彦(高25) 大澤 誠(高26)
 平野正美(高26)